

平成 29 年 6 月 25 日現在

機関番号：32627

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26285202

研究課題名(和文) 論理的思考力・表現力育成のための幼小中・教科間連携によるカリキュラム・授業開発

研究課題名(英文) Development of Curriculum and Lesson by Cooperation among Kindergarten, Elementary School and Junior High School for Development of Logical Thinking and Expressing

研究代表者

河野 順子 (KAWANO, JUNKO)

白百合女子大学・人間総合学部・教授

研究者番号：80380989

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,700,000円

研究成果の概要(和文)：国語科を中心に、幼稚園・小学校・中学校の算数・数学科、理科、社会科、音楽科、英語科、図工科・体育科・道徳のカリキュラム及び授業開発を行った。そして、熊本大学教育学部附属学校園と熊本県・市教育委員会の連携事業として『論理的思考力・表現力育成のためのカリキュラム開発 - 教科間連携、幼・小・中連携を視野に入れて - 』（溪水社、2015年）を公刊した。幼小中の論理的思考力の発達はかなり明かとなった。

研究成果の概要(英文)：Curriculum and lecture contents were developed regarding Japanese Language in particular, as well as Mathematics, Science, Social Studies, Music, English, Art and Handicraft, Physical Education and Moral Education at kindergartens, elementary and junior high schools. In addition, a book was published as a collaborative project of Kumamoto University (Faculty of Education) Affiliated Schools and Kumamoto Prefectural Board of Education and Kumamoto City Board of Education: "Curriculum Development for Logical Thinking and Expressive Ability -for the Cooperation among Subjects and among Kindergartens, Elementary and Junior High Schools-" (Keisuisha Co., Ltd., 2015). Development of logical thinking ability became significantly clear through kindergartens, elementary and junior high schools.

研究分野：国語科教育

キーワード：論理的思考力 表現力 幼小中連携 教科間連携 カリキュラム開発 授業開発

1. 研究開始当初の背景

研究開始時、新学習指導要領が平成23年度から小学校で、平成24年度から中学校で全面実施となった。新学習指導要領において、それぞれの教科において「基礎的・基本的な知識・技能」を身につけるために、「思考力・表現力を育成する」ことが求められていた。そのための措置として言語活動例が各教科で設定されていた。しかし、育成すべき「思考力・表現力」を各教科で明らかにすることはもとより、教科間を貫く「思考力・表現力」は明らかではなく、現場実践には何をどのように実践していけばよいのかという戸惑いがあるという状況であった。

2. 研究の目的

本研究では、幼・小・中を貫く発達を加味した「思考力・表現力」の育成を、特にその究明が急がれている「論理的思考力・表現力の育成」に着眼し、大学と附属学校園及び教育委員会との連携を通して明らかにすると共に、大学研究者による教科間連携のもとカリキュラムを開発と実践現場に寄与できる授業提案を行うことが目的であった。

3. 研究の方法

まず、1点目に、社会構成主義を基盤とした「学び」観によるコミュニケーション能力育成のためのカリキュラム案の精緻化をすすめる。

2点目に、教科の独自性を盛り込んだ、論理的思考力・表現力育成のための教材開発、授業デザインを盛り込んだ論理的思考力・表現力育成のための授業開発を行う。

3点目に、2点目の成果の統合的分析による論理的思考力・表現力の育成のための教科横断的カリキュラムの開発と提案を行う。

4点目に、1～3の成果を拡充し、児童生徒の発達段階を加味し、幼小中を貫く論理的思考力・表現力育成のための総合的カリキュラム及び授業を開発し、提案する。

4. 研究成果

本研究では、幼・小・中を貫く発達を加味した「思考力・表現力」の育成を、特にその究明が急がれている「論理的思考力・表現力の育成」に着眼し、大学と附属学校園及び教育委員会との連携を通して明らかにすると共に、大学研究者による教科間連携のもとカリキュラム開発と実践現場に寄与できる授業提案を行うことを目的として行った。研究実績として以下をあげることができる。

熊本県市の教育委員会との連携による「論理的思考力・表現力育成のための授業開発」を前年まで五か年（2011～2015 まで河野をリーダーとして開催）で開催し、地域の授業研究に寄与することができた。この営みは現在でも協働による地域の教育研究会との営みとして、日本国語教育学会熊本支部大会（熊本県教育委員会後援、熊本市教育委員会後援、熊本県小学校国語教育研究会共催、熊本市小学校国語教育研究会共催、熊本県中学校国語教育研究会共催、熊本市中学校国語教育研究会共催）として継続し、河野が白百合女子大学へ移動後も、河野を支部長として、論理的思考力・表現力育成のカリキュラム開発・授業開発を推進

している。さらに、この営みは同様に山梨県においても教育委員会との連携が進み、地域の教育へ寄与することができた。

教科ごとの成果としては、社会科は、2年、4年での社会科における論理的思考力及び言語活動のカリキュラム構成を行い、1年、3年、5年の授業構成及びカリキュラム構成を行った。平成28年度の研究成果は、地震などの災害時に必要な思考力・判断力を育てるための中学校社会科授業を開発するとともに、その効果を実験的に検証したこと。具体的には、『地震イツモマニュアル』（国土社）に掲載されている21個の防災グッズが必要な理由を考えさせたり、それら21個を常備する妥当性を吟味させたりする授業を開発した。熊本大学教育学部附属中学校における実験授業の結果、9割以上の生徒が授業は「ためになった」又は「どちらかと言えばためになった」と答えた反面、災害サイクルという災害の見方・考え方を育てることが急務であることが明らかになった。本研究の詳細は、2016年12月4日に熊本大学で開催された熊本県社会科教育学会第11回研究大会で口頭発表した。

体育科、英語科、音楽科、技術科、体育科、英語科、音楽科にける論理的思考力、表現力育成のための統合的カリキュラム案の仮説案を提案した。

国語科は、コンテンツベースの学力とコンピテンシーベースとしての学力である「根拠・理由付け・主張」を用いた批評読みとその交流の小学校における発達を見いだすことができたことが大きな成果であった。その成果を2016年度第131回全国大学国語教育学会の課題研究で、「国語科におけるアクティブラーニングの可能性と課題」と題して、鶴田・河野が提案発表を行った。また、単著河野順子共著（2017.3.16）『質の高い対話で深い学びを引き出す小学校国語科「批評読みとその交流」』明治図書、pp.1-156としても公刊することができた。

また、本科学研究費の期間内に、教科間連携・幼小中連携の成果として大学と地域教育委員会との連携した単著河野順子（2015.2.25）第一部 論理的思考力・表現力育成のためのカリキュラム開発がめざしたこと pp.3-42, 第二部 論理的思考力・表現力育成のためのカリキュラムの実際 第1章 教科を貫く論理的コミュニケーション能力の育成 第1節 教科を貫くコミュニケーション能力の育成 - 国語科教育の取り組み - pp.43-49, 熊本大学教育学部・四附属学校園編『論理的思考力・表現力育成のためのカリキュラム開発 - 教科間連携、幼・小・中連携を視野に入れて -』溪水社（全299頁）（熊本大学学術図書出版助成金によ

る公刊)を公刊することができたことは大きな成果であった。

また、鶴田・河野の共編で公刊した

鶴田清司・河野順子(2014.8)編著『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン 小学校編』明治図書(全178頁)

鶴田清司・河野順子(2014.11)『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン中学校編』明治図書

は全国の多くの先生方に手にとりいただき、今や「根拠・理由付け・主張」の三点セットは国語教育だけではなく、全教科に共有のコンピテンシーベースの論理的思考力・論理的コミュニケーション能力として多くの学校の実践を支えるツールとなってきたことも大きな成果としてあげることができる。

5. 主な発表論文等

【雑誌論文】(計 36件)

1. 鶴田清司(2017)「資質・能力を育てる国語科授業づくりとアクティブ・ラーニングの考え方～論理的思考としての類推によるアクティブな学び～」『教育科学国語教育』805、明治図書、pp.16-19、査読無
2. 河野順子(2017)「国語科におけるアクティブ・ラーニングの可能性と課題」全国大学国語教育学会編『国語科教育』81号、3-5(査読有)
3. 河野順子(2017)「教員養成カリキュラムに関する一考察 - 『理論の実践化』から『実践の中の理論』へ」、『白百合女子大学初等教育学科紀要』『保育・教育の実践と研究』1巻、25-34(査読無)
4. 細川太輔(2016)「論理的思考力を育てる構成指導」、『月刊国語教育研究』533巻、4-9(査読無)
5. 細川太輔・井上陽動(2016)「言語活動における子どもの文章産出中の思考についての一考察」、『東京学芸大学国語教育学会研究紀要』13巻、13-25(査読有)
6. 細川太輔・柄本健太郎・上田真也・中村和弘(2016)「資質・能力の3要素における相互作用についての一考察 - 小学校国語科の事例から - 」、『東京学芸大学紀要人文社会科学系』68巻、1-13(査読無)
7. 鶴田清司(2016)「コンピテンシー・ベースの授業づくり コンテキストをどう作るか 国語科の本質に根ざした資質・能力の育成とコンテキスト」(鶴田清司)、『指導と評価』744、2016年12月号、日本教育評価研究会、pp.54-56、査読無
8. 鶴田清司(2016)「自分の既有知識・生活経験から類推する読み～主体的・対話的で深い学びのために～」、『考える「国語」の授業』9、学校図書、pp.3-5、査読無
9. 鶴田清司(2016)「自分の既有知識・経験から類推するアクティブな学び」、『読み』の授業研究会編『国語授業の改革「アクティブ・ラーニング」を生かした新しい「読み」の授業』、学文社、pp.144-151、査読無
10. 鶴田清司(2016)「対話的な学び」につながる授業づくりのポイント～「批評読みとその交流」の授業から～」、『教育科学国語教育』797、明治図書、pp.36-39、査読無
11. 河野順子(2016)「今求められている国語授業 - 主体的・対話的な学びを導く『批評読みとその交流』」、『子どもと創る国語の授業』54巻、東洋館出版、44-47(査読無)
12. 河野順子(2016)「これからの国語教育の課題 - 『批評読みとその交流』によるアクティブな学び」、『教育とコミュニケーションの研究雑誌『季刊理想』』120巻、7-8(査読無)
13. 河野順子(2016)「入門期の説明的文章指導に関する一考察(その1) - 幼稚園における参与観察を通して - 」、『白百合女子大学研究紀要』52巻、85-104(査読無)
14. 河野順子(2016)「学びの履歴としてのカリキュラム」と「計画としてのカリキュラム」統合の必要性 - 話すこと・聞くことの将来と国語科教育の課題、全国大学国語教育学会編『国語科カリキュラムの再検討』6巻、27-32、(査読有)
15. 河野順子(2016)グループ学習を取り入れた「読むこと」の授業づくり「読むこと」の授業でのグループ学習のポイント「根拠 理由付け 主張」の三点セットを用いた交流『国語教育科学』no.793 明治図書、pp.56-59
16. 河野順子(2015)セット教材で学び方を学ぼう。『ことばの力』三省堂(pp.2-5)
17. 岩下嘉邦・河野順子(2015)中学生のコミュニケーションにおける論理的な思考力の育成 理由づけの質に着目して 『熊本大学教育学部紀要』第64号、pp.9-16
18. 鶴田清司(2015)「国語科と『アクティブ・ラーニング』 - 頭の中をアクティブな状態にすることが基本 - 」読みの科学研究会『研究紀要』16巻、108(査読無)
19. 鶴田清司(2015)「教科の枠を超えてコンピテンシーを育てる - 『類推』による思考の有効性 - 」『教育展望』61巻、16-20(査読無)
20. 河野順子(2014)校内研修改革・どこがポイントか 実践家と研究者の協働による授業研究への挑戦 「根拠・理由づけ・主張の3点セット」を中核にして 『授業力&学級統率力』057、明治図書 p.115.
21. 河野順子(2014)〈対話〉による説明的文章の授業づくり 論理的思考力・表現力の育成を目指して(小・中)、『月刊国語教育研究』NO.511、日本国語教育学会編、72頁
22. 河野順子(2014)読み書き関連のこれからの方向性 既習の知識・技能の活用、思考力の育成を中核にした取り組み、『月刊国語教育研究』NO.

- 510, 日本国語教育学会編, 16 頁
23. 河野順子(2014) 論理的思考力・表現力の育成, 伊勢原市教育センター創立 20 周年記念誌 10 年のあゆみ, 7 - 10
24. 河野順子(2014)「学習問題のある授業となし授業 どこが違うか 子どもの側からの学びの実現」『教育科学国語教育』. 明治図書. NO. 773. 9
25. 岩下嘉邦・河野順子(2014)論理的なコミュニケーション能力に関する一考察 アーギュメント理論をてがかりにして, 熊本大学教育学部紀要第 63 号
26. 山元悦子・松尾剛・若木常佳・稲田八穂・河野順子・幾田伸司・三浦和尚(2014)小学生の話し合う力をどう見取るか - 発達研究に依拠した実態調査を手がかりに - . 日本教科教育学会『日本教科教育学会誌』第 37 巻第 1 号, pp. 53-62
27. 鶴田清司(2014)「連載 国語授業で論理的対話力をどう育てるか 第九回 理由づけの質を高める - 『じどう車くらべ』の授業」明治図書『教育科学国語教育』780, 114 - 115 (査読無)
28. 鶴田清司(2014)「連載 国語授業で論理的対話力をどう育てるか 第八回 理由づけの質を高める - 『すがたをかえる大豆』の授業 (その 2)」明治図書『教育科学国語教育』779, 114 - 115 (査読無)
29. 鶴田清司(2014)「連載 国語授業で論理的対話力をどう育てるか 第七回 理由づけの質を高める - 『すがたをかえる大豆』の授業 (その 1)」明治図書『教育科学国語教育』778, 114 - 115 (査読無)
30. 鶴田清司(2014)「連載 国語授業で論理的対話力をどう育てるか 第六回 類推としてのたとえ話 (その 2)」明治図書『教育科学国語教育』777, 114 - 115 (査読無)
31. 鶴田清司(2014)「連載 国語授業で論理的対話力をどう育てるか 第五回 類推としてのたとえ話 (その 1)」明治図書『教育科学国語教育』726, 114 - 115 (査読無)
32. 鶴田清司(2014)「連載 国語授業で論理的対話力をどう育てるか 第四回 類推思考を取り入れよう - 『故郷』の授業が実証した有効性 -」明治図書『教育科学国語教育』775, 114 - 115 (査読無)
33. 鶴田清司(2014)「連載 国語授業で論理的対話力をどう育てるか 第三回 論理的であるとは具体的であるということ (その 2)」明治図書『教育科学国語教育』774, 114 - 115 (査読無)
34. 鶴田清司(2014)「連載 国語授業で論理的対話力をどう育てるか 第二回 論理的であるとは具体的であるということ (その 1)」明治図書『教育科学国語教育』773, 114 - 115 (査読無)
35. 鶴田清司(2014)「連載 国語授業で論理的対話力をどう育てるか 第一回 論理的対話力を支えるもの」明治図書『教育科学国語教育』772,

- 114 - 115 (査読無)
36. 鶴田清司(2014)「解釈学的アプローチ」教育方法学会編『教育方法学研究ハンドブック』74 - 77 (査読有)

【学会発表】(計 14 件)

- 河野順子 (2017.3.4) 説明的文章の学習指導における主体的・対話的な深い学び, 東京学芸大学国語教育学会平成 28 年度大会, 東京学芸大学附属大泉小学校 (招待講演) (東京都練馬区)
- 藤瀬泰司・青木英範 (2016)「防災グッズを活用した国土・防災学習の授業開発」, 熊本県社会科教育学会, 熊本大学 (熊本県熊本市)
- 細川太輔・谷内正浩 (2016)「物語における学習環境としての codeable craft」, 日本教育工学学会, 大阪大学 (大阪府吹田市)
- 細川太輔・上田真也・中村和弘 (2016)「国語科授業における 21 世紀型コンピテンシーの相互作用」, 第 131 回全国大学国語教育学会, 白百合女子大学 (東京都調布市)
- 河野順子 (2016.12.23) 主体的・対話的な深い読みを生み出す「批評読みとその交流」 - アクティブ・ラーニングによる授業づくり - , 第 24 回日本国語教育学会熊本支部研究大会全体講演, 熊本大学教育学部附属小学校 (熊本県熊本市)
- 河野順子(2016.10.15)「国語科におけるアクティブラーニングの可能性と課題」コーディネーター, 第 131 回全国大学国語教育学会シンポジウム東京大会, 白百合女子大学 (東京都調布市)
- 河野順子 (2016.8.1) アクティブラーニングによる説明的文章の単元づくり - 「対話」を中核に(小・中) - , 第 79 回国語教育全国大会ワークショップ, 日本国語教育学会, 品川区立品川学園 (東京都品川区)
- 河野順子 (2016.5.26) 公開講座「<対話>のある授業づくり」コーディネーターおよび発表, 第 130 回全国大学国語教育学会, 新潟大学(新潟県新潟市)
- 鶴田清司 (2016)「自分の既有知識・経験から類推するアクティブな学び」第 131 回全国大学国語教育学会, シンポジウム提案, 2016 年 10 月 15 日, 白百合女子大学 (東京都調布市)
- 鶴田清司 (2016)「コンピテンシーとしての論理的思考力・表現力を育てる 国語科教育の観点から」第 22 回日本道徳教育方法学会, シンポジウム提案, 2016 年 6 月 11 日, 茨城大学 (茨城県水戸市)

11. 河野順子(2015.10.25)課題研究：国語科教育における理論と実践の統合(2) - 養成教育のあり方 , 「理論の実践化」から「実践の中の理論」へ、第128回全国大学国語教育学会西東京大会(於：創価大学)(東京都八王子市)
12. 河野順子(2015.8.2) <対話>による説明的文章の授業づくり2 論理的思考力・表現力育成を目指して(小・中) - 第78回日本国語教育学会国語教育全国大会ワークショップ(於：品川区立小中一貫校品川学園)(東京都品川区)
13. 河野順子(2014.8.9) <対話>による説明的文章の授業づくり 論理的思考力・表現力の育成を目指して(小・中) , 第77回日本国語教育学会国語教育全国大会ワークショップ(於：品川区立小中一貫校品川学園)(東京都品川区)
14. 河野順子(2014.5)国語科カリキュラムの再検討 「話すこと・聞くこと」のカリキュラム , 第126回全国大学国語教育学会名古屋大会課題研究コーディネーター兼発表, 名古屋大学(愛知県名古屋市)

【図書】(計 12件)

1. 角屋重樹・鶴田清司ほか36名(2017)日本国語教育学会編『教科教育学研究ハンドブック～今日から役立つ研究手引き～』、教育出版、執筆担当箇所「教科教育の内容研究」pp.114-119 査読有
2. 河野順子共著(2017)『質の高い対話で深い学びを引き出す小学校国語科「批評読みとその交流」』明治図書, pp.1-156
3. 細川太輔(2016)『ことものひと3つの視点でデザインする国語授業アイデア23』東洋館出版、1-124
4. 河野順子(2016)美しい願いごとのように、溪水社, 1-148
5. 奈須正裕・江間史明・鶴田清司(2015)『教科の本質から迫るコンピテンシーベースの授業づくり』図書文化, 1-183
6. 河野順子(2015)「批評読みとその交流」に関する一考察 メタ認知的知識としての条件的知識に着目して . 『国語教育学研究の創成と展開』編集委員会『国語教育学研究の創成と展開』. 溪水社. pp.203-212
7. 河野順子(2015)「批評読みとその交流」に関する授業のデザイン - メタ認知的知識としての条件的知識に着目して - , 広島大学附属小学校国語科編『国語科教育実践の開拓と創造 - 吉田裕久先生とともに - 』鯉城印刷株式会社, pp.25-32 (184)
8. 河野順子・藤瀬泰司・飯野直子・山崎浩隆・緒方信行・坂下玲子・田口浩継(2015)第一部 論理的思考力・表現力の育成のためのカリキュラム開発がめざしたこと pp.3-42, 第二部 論理的思考力・表現力育成のためのカリキュラムの実際 第1章 教科を貫く論理的コミュニケーション能力の育成 第1節 教科を貫くコミュニケーション能力の育成 - 国語科教育の取り組み - pp.43-49, 熊本大学教育学部・四附属学校園編『論理的思考力・表現力育成のためのカリキュラム開発 - 教科間連携、幼・小・中連携を視野に入れて - 』溪水社(全299頁)(熊本大学学術図書出版助成金による公刊)
9. 鶴田清司・河野順子(2014)『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン中学校編』明治図書
10. 鶴田清司・河野順子(2014)編著『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン 小学校編』明治図書(全178頁)
11. 河野順子・山元悦子・住田勝(2014)第1章 言語コミュニケーションをどうとらえるか 2. 発達ステージごとの重点課題 (1) 幼児期後期から入門期・小学校低学年, 92-98, 第2章 言語コミュニケーション能力を育てるカリキュラムモデル 1 入門期の指導 「一次のことば」から「二次のことば」への移行 , 127-146, 位藤紀美子監修, 言語コミュニケーション能力を育てる 発達調査をふまえた国語教育実践の開発, 溪水社(日本学術振興会平成25年度科学研究費(成果公開促進)による公刊)
12. 河野順子(2014)学習指導要領シンポジウム第4弾 言語活動を支える論理的思考力・表現力の育成 小・中にわたる「読み」を深めるための「根拠」「理由付け」「主張」の三点セットによる話し合い活動の提案 , 私家版, 1-130

〔産業財産権〕なし

〔その他〕

ホームページ等

河野順子ホームページ

<http://www.kawano-lab.jp/>

6. 研究組織

- (1)研究代表者
河野 順子 (KAWANO, Junko)
白百合女子大学・人間総合学部・教授
研究者番号：80380989
- (2)研究分担者
宮瀬 美津子 (MIYASE, Mitsuko)
熊本大学・教育学部・教授
研究者番号：10219785
- 島谷 浩 (SHIMATANI, Hiroshi)
熊本大学・教育学部・教授
研究者番号：10258337
- 松永 拓己 (MATSUNAGA, Takumi)
熊本大学・教育学部・准教授
研究者番号：10380990
- 坂下 玲子 (SAKASHITA, Reiko)
熊本大学・教育学部・教授
研究者番号：20178552
- 山元 悦子 (YAMAMOTO, Etsuko)
福岡教育大学, 教育学部, 教授
研究者番号：20220452
- 長嶺 寿宣 (NAGAMINE, Toshinobu)
熊本大学・教育学部・准教授
研究者番号：20390544
- 山崎 浩隆 (YAMAZAKI, Hirotaka)
熊本大学・教育学部・准教授
研究者番号：20555768
- 鶴田 清司 (TSURUDA, Seiji)
都留文科大学・文学部・教授
研究者番号：30180061
- 藤瀬 泰司 (FUJISE, Taiji)
熊本大学・教育学部・准教授
研究者番号：30515599
- ピダーソン スタン (Pederson, Stan)
熊本大学・教育学部・准教授
研究者番号：30515747
- 住田 勝 (SUMIDA, Masaru)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：40278594
- 田口 浩継 (TAGUCHI, Hirotugu)
熊本大学・教育学部・教授
研究者番号：50274676
- 緒方 信行 (OGATA, Nobuyuki)
熊本大学・教育学部・教授
研究者番号：60535714
- 飯野 直子 (IINO, Naoko)

熊本大学・教育学部・准教授
研究者番号：80284909

宮下 孝広 (NIYASHITA, Takahiro)
白百合女子大学・人間総合学部・教授
研究者番号：00190778

細川 大輔 (HOSOKAWA, Daisuke)
東京学芸大学・教育学部・准教授
研究者番号：70738228

山本 信也 (YAMAMOTO, Shinya)
熊本大学・教育学部・教授
研究者番号：20145402

(3)連携研究者
()
研究者番号：

(4)研究協力者
古賀洋一 (KOGA, Yoichi)
廣口知世 (HIROGUTI, Tomoyo)
長元尚子 (NAGAMOTO, Naoko)
坂崎慎太郎 (SAKAZAKI, Shintaro)
下中一平 (SHIMONAKA, Ippei)
城音寺明夫 (JOONJI, Akio)
沖田史恵 (OKITA, Fumie)
豊田誠一郎 (TOYOTA, Seiichiro)
西村正之 (NISHIMURA, Seiichiro)
原口淳一 (HARAGUTI, Juniti)